

# 審査員の

応募された作品の読者として最初の出会いが最も重要に思えます。最初の印象からの期待、中盤の意外な展開と盛り上がり、そして最後の納得です。「おっ」とか「えっ」とか「おおー」「あれー？」などと思いつつながら読ませてもらいます。出だしの発想は魅了的で期待大でも、展開や結末に無理があったり、お話が面白くても絵の仕上がりに不足があり残念だったりします。結果として、大賞に選出された作品は、出版を前提としていますので、ストーリーや絵の完成度が充分な作品となります。上位入賞作品は次回作を楽しみにしています。

## Profile

新潟県生まれ。色鉛筆を使った細やかであたたかい画風の絵を数多く発表。主な絵本作品に、『ごんぎつね』『手ぶくろを買いに』『猫の事務所』（偕成社）、『おかあさんの目』（あかね書房）、『ころわんシリーズ』（ひさかたチャイルド）、画集に『雲の信号』（偕成社）などがある。



くろい けん  
**黒井 健**  
絵本画家

## Profile

愛知県生まれ。あたたかい線でユーモラスな動物たちが登場する絵本を数多く発表。主な作品に、『どっちからよんでも』（絵本館）、『ワニぼうのこいのぼり』（文芸堂）、『うし』（アリス館）、『よいこはもうねるじかん』（BL出版）、『オレ・ダレ』『プービーとすべりだい』『ふたりのナマケモノ』（いずれも講談社）などがある。



たかばたけ じゅん  
**高島 純**  
絵本作家

## Profile

同社は、「環境」「安全」「ダイバーシティ」を社会貢献領域の中核重点分野と定め、活動に取り組む。次代を担う子どもたちへの支援は、同社が社会貢献活動を通じて一貫して取り組んでいるテーマであり、1984年のグランプリ創設以来、協賛を続けている。



うちだ まこと  
**内田 誠**  
日産自動車（株）  
代表執行役社長兼最高経営責任者

「日産 童話と絵本のグランプリ」は、日産自動車を取り組む社会貢献活動の中で最も長い歴史を持つ活動です。長きにわたりこの活動が継続できたのは、ご応募いただいた皆さま、グランプリ実施にご尽力いただいた関係者の皆さまのおかげです。

第39回は時代の変化を反映し、多様性をテーマにした作品が多く寄せられました。良い本と接することで育まれる子どもたちの豊かな想像力が、多様性を受け入れ、さまざまな人とともに未来を切り開く力になることを願い、これからもグランプリを大切に育てて参ります。

# ご紹介・選評

## Profile

東京生まれ。日本の神話や伝承をいかしたファンタジー読物や絵本を数多く発表。『クヌギ林のザワザワ荘』で日本児童文学者協会新人賞他、『小さなスズナ姫』シリーズで新美南古児童文学賞、『盆まねき』で野間児童文芸賞等を多数受賞している。他の作品に『葉の子先生』シリーズ、絵本『まゆとおに』など。



とみ やす よう こ  
**富安 陽子**  
童話作家

最終審査に残った作品はどれも、発想が豊かで感心させられます。書き手の数だけ物語の種があるのだなあと嬉しくなります。今回も「これ、面白いな」とか「これ、いいな」と唸られたものがいくつもありました。それだけにものたない気がするのです。もっと深く、もっと心躍る物語になる可能性が十分あるのに……というもどかしさを感じてしまいます。せつかくすばらしい種を見つけているのですからその種を最後まで育ててください。その苦労こそ創作の醍醐味だと思います。

## Profile

岡山市生まれ。現在は長野県大田市に在住。『季節風』同人。『たんばたろう』で毎日童話新人賞、『京のかざぐるま』で日本児童文学者協会賞、『なまくら』で野間児童文芸賞を受賞。主な作品に『風の海峡』上下巻、『すし食いねえ』『はつけよい！雷電』『小説鶴杉』『風雪のペン』などがある。



よしはし みち お  
**吉橋 通夫**  
児童文学作家

既視感の強い作品は、やはり損です。出来ればまだ誰も書いたことのない素材や人物像、ストーリーを読みたいものです。今回初めて、トランスジェンダーが主人公の童話が応募されました。ところがその作品では、主人公は女の子として書かれているのに、ラストまでで初めて自分のことを「ぼく」と言います。単なる言い間違いかとさえ思われる書き方でした。素材やテーマの斬新さ、話題性だけに頼るのではなく、読者が納得するリアリティを備えた物語を紡いで頂ければと思います。

## Profile

日本児童文学の研究者。立教大学文学部日本文学科卒。同大学院修了。宮城教育大学助教授等をへて、現在、武蔵野大学名誉教授。日本児童文学学会会長、日本児童文学者協会評議員も務める。『現代児童文学の語るもの』（NHKブックス）、『物語もつと深読み教室』（岩波ジュニア新書）など著書・編著多数。



みやかわ たけ お  
**宮川 健郎**  
(一財)大阪国際児童文学振興財団 理事長

選考は、作者の名前をふせて行います。童話の部の最終選考終了直後に、大賞受賞者の名前が明かされて、拍手が起こりました。これまで繰り返し応募され、何度も佳作や優秀賞を受賞された作者がとうとう大賞になったからです。作品は作者のもですが、応募して、手もとから離し、他者の目にさらすことによって、ようやく作者のなかに作品を見直す客観的な視点が生まれます。この視点こそが作品を育て、豊かにします。「あたしは本をよまない」、おもしろかった。おめでとございます。